２７岡崎国第２－５号
平成２７年１０月２１日

関係機関の長　　様

大学共同利用機関法人
自然科学研究機構
基礎生物学研究所長
山　本　正　幸
〔公　印　省　略〕

平成２８年度自然科学研究機構基礎生物学研究所共同利用研究の公募について（通知）

基礎生物学研究所は、大学共同利用機関として共同利用研究を広く公募し、推進しています。平成２８年度の公募を開始いたしますので、貴機関の各研究者に周知くださるようお願いします。申込みは、基礎生物学研究所ホームページ（http：//www.nibb.ac.jp/）掲載の書式をご利用ください。

記

１．公　募　事　項

(1)　重点共同利用研究
(2)　モデル生物・技術開発共同利用研究
(3)　個別共同利用研究
(4)　統合ゲノミクス共同利用研究
(5)　統合イメージング共同利用研究
(6)　研究会
(7)　大型スペクトログラフ共同利用実験
(8)　トレーニングコース実施

※ 上記の各事項はいずれも平成２８年４月～平成２９年３月の期間とします。

計算科学研究センターの利用について

電子計算機を利用される場合は、平成２８年度自然科学研究機構岡崎共通研究施設計算科学研究センター(http://ccportal.ims.ac.jp/information)の「利用申請/利用報告に関する情報」をご参照ください。

２．申　込　資　格

大学及び公的研究機関に所属する研究者、又は基礎生物学研究所長（以下、「所長」という。）がそれと同等の研究能力を有すると認める者。（申込から研究報告書提出まで，責任を持って研究を遂行できる方を提案代表者としてください。共同利用研究（実験）者についても、大学及び公的研究機関に所属する方とします。）

３．申　込　方　法

該当する申込書を所属機関（部局）の長を通じて提出してください。

なお、施設利用以外の共同利用研究を希望する場合には、申込書を提出される前にあらかじめ本研究所の最も関連があると思われる研究部門の教授、准教授又は助教と、研究課題、研究計画、来所予定期間、必要経費等について打ち合わせてください。（「研究部門・研究室一覧」等を参照）

申込みに際して所内関連研究部門（所内対応者）との事前打合せが行われていない場合には、採択できません。

申請書に関して異動等により所属長の職印の書類が整わない場合、後日提出されても結構です。なお、この場合、申込みの際に理由書（様式自由）を提出してください。

４．受　付　期　間

平成２７年１１月２日（月）～平成２７年１２月１４日（月）まで（必着）

ただし、重点共同利用研究を除く共同利用研究等は、所内対応者と打ち合わせの上、必要と認める場合には、申込期限以降でも随時受け付けます。

なお、**随時申込みの場合は、以下の取り扱いとなります。**

・随時申込みの受付期間は、「５月１日～１０月末日」までとします。

・公募期間中に申請できなかった理由書（様式自由）を添付してください。

※　随時申込みの場合は、月末までに受付けた申請書を翌月の審査に付します。

採否の決定に約２ヶ月かかる場合もありますのでご承知おき願います。

５．採　　否

運営会議の議を経て所長が決定します。

６．採否決定の時期

平成２８年３月

７．所　要　経　費

本研究所の予算の範囲内において支出します。（経費は、基礎生物学研究所で使用していただきます。）

８．旅 費 の 支 給

本研究所の予算の範囲内において自然科学研究機構役職員旅費規程により支給します。

なお、共同利用研究者（指導教員）に帯同又は指導教員の指示の下、来所する学部学生の旅費も支払い可能です。

＊学部学生に旅費を支給する際は、「自然科学研究機構基礎生物学研究所における共同利用研究に参加する学部学生の取り扱いについて」により事前手続きを行ってください。

なお、大学院生及び学部学生については、財団法人日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険（付帯賠償責任保険を含む。）又はこれと同等以上の保険に加入していることが条件となります。

９．放射線業務従事認定申請書の提出

各共同利用研究、共同利用実験において、本研究所でラジオアイソトープを使用される場合は、採択後、放射線業務従事者登録手続きが必要となります。

10. 組換えＤＮＡ実験計画書の提出

各共同利用研究、共同利用実験において、組換えＤＮＡ実験を伴う場合は、所内関連研究部門から実験計画書を提出していただくことになります。

11. 動物実験計画書の提出

各共同利用研究、共同利用実験において、動物実験を伴う場合は、実験計画書を提出していただくことになります。

12. ヒトゲノム・遺伝子解析研究

各共同利用研究・共同利用実験において、本研究所で「ヒトゲノム・遺伝子解析研究」を伴う場合は、採択後、岡崎３機関生命倫理審査委員会の審査が必要となります。

13. 研究報告書の提出

共同利用研究終了後３０日以内に提案代表者から研究報告書を所長へ提出していただきます。なお、この研究報告書は本研究所共同利用研究報告書等に掲載することをご承知おき願います。

研究報告書の提出が無い場合は、次年度の申請は原則として受け付けませんので、必ず提出してください。

14. 研究成果の発表

共同利用研究の成果を発表される場合には、本研究所共同利用研究によった旨を付記していただくとともに、論文の場合には当該論文の別刷を所長に提出していただきます。

15. 知的財産権の取扱について

自然科学研究機構職務発明等規程（平成１６年自機規程第１２号）に定めるところによることとします。

16. 宿　泊　施　設

共同利用研究者宿泊施設を利用できます。

17. 育児支援について

事業所内託児施設が利用できます。利用を希望される場合は、事前に下記までお問い合わせください。

自然科学研究機構　岡崎統合事務センター
総務部　総務課　総務係
電話　(0564)55-7112（ダイヤルイン）

18. 申込書送付先

〒444-8585　岡崎市明大寺町字西郷中３８
自然科学研究機構　岡崎統合事務センター
総務部　国際研究協力課　共同利用係
電話　(0564)55-7133（ダイヤルイン）
(封筒の表に「共同利用研究申込書在中」と朱書すること。)

公 募 事 項 別 の 内 容

１．重点共同利用研究

生物学の基盤研究をさらに強化発展させ、独創的で世界を先導する研究を創成し、発展させるため、他の研究機関の研究者と所内の教授、准教授又は助教が共同して行う複数のグループからなる研究。（公募期間外の随時申請は受け付けません。）

⑴　申込者（提案代表者）

所内、所外いずれの研究者であっても差し支えないものとします。

⑵　研究期間

１年以上３年を超えない期間（２年以上継続する場合、年度ごとに申込書を提出していただき、共同利用研究委員会において採否を審査します。）

⑶　研究費（本研究所の予算の範囲内において支出します。）

１件あたり年間上限３００万円まで

⑷　研究内容等の説明

研究内容、所要経費等について、共同利用研究委員会で説明していただくことがあります。

⑸　研究報告

各年度末に開催の共同利用研究委員会等において中間報告又は研究期間終了時に研究成果報告会をしていただくことを予定しています。

２．モデル生物・技術開発共同利用研究

生物学研究に有用な新しいモデル生物の確立および解析技術開発に向けて、他研究機関の研究者と所内の教授、准教授又は助教が共同して行う研究

⑴　申込者（提案代表者）

所内、所外いずれの研究者であっても差し支えないものとします。

⑵　研究期間

１年以上５年を超えない期間（２年以上継続する場合、年度ごとに申込書を提出していただき、共同利用研究委員会において採否を審査します。）

⑶　研究費（本研究所の予算の範囲内において支出します。）

１件あたり年間上限１００万円まで

⑷　申請

申請書を提出される前に、あらかじめ最も関連があると思われる研究施設の教授、准教授又は助教と研究課題、研究計画、必要経費について打ち合わせてください。

本共同利用研究は新しいモデル生物の確立や解析技術の開発が生物学の進展に極めて重要であるとの観点から推進するもので、以下の研究が含まれます。

１）モデル生物の創成、改良等新規なモデル生物の確立にむけた研究

２）新たな解析技術の開発、改良にむけた研究

３）モデル生物や新規解析技術の普及を目指すワークショップ等の開催

３．個別共同利用研究

他の研究機関の研究者が、所内の教授、准教授又は助教と協力して行う個別プロジェクト研究

(1) 研究期間

１年以内

(2) 申込者（提案代表者）

所外の研究者に限ります。

(3) 経費負担

共同利用研究の実施に必要な基礎生物学研究所までの交通費及び日当・宿泊料を本研究所の予算の範囲内において支給します。（研究費の助成はありません。）

(4) 申請

申請書を提出される前に、あらかじめ最も関連があると思われる研究施設の教授、准教授又は助教と研究課題、研究計画、必要経費について打ち合わせてください。

４．統合ゲノミクス共同利用研究

基礎生物学研究所が運用している次世代DNAシーケンサーを使用したハイスループット遺伝子解析、および、大規模計算機システム（生物情報解析システム）を活用したゲノム関連データ解析を中心に、他研究機関の研究者あるいは所内の研究者が、生物機能解析センターと共同して行う研究です。これは、ゲノミクス研究の目覚ましい発展とともに変化する共同利用研究のニーズに応えるために、従来の次世代DNAシーケンサー共同利用実験と大規模計算機システムを用いた共同利用実験を統合して、平成28年度から開始するものです。

(1) 申込者（提案代表者）

所内、所外いずれの研究者であっても差し支えないものとします。

(2) 研究期間

１年以内。更新可能。（年度毎に共同利用研究委員会において審査されます。）

(3) 研究課題

主たる担当教員を以下のように配置しますが、研究課題に応じて柔軟に対応します。

A. ゲノミクス（担当教員：重信秀治　特任准教授（cai@nibb.ac.jp））

当研究所の生物機能解析センターでは、イルミナ社のHiSeqとMiSeq、およびパシフィックバイオ社の PacBio RS II の次世代DNAシーケンサーを運用しています。また高度なライブラリ調製やデータ解析のための設備も整備されています。(http://www.nibb.ac.jp/analyins/) これらを活用して、実験計画からデータ解析まで緊密な連携の上で共同研究を行います。特に、既存技術では不可能だった興味深い生命現象へのアプローチや、次世代シーケンシングの新規応用法の開発に関する課題を歓迎します。生物種は問いません。また、ゲノムやトランスクリプトーム解析のみならず、次世代シーケンシング技術を使った多様なオミクス解析（例：エピゲノミクスやエコゲノミクスなど）や、質量分析装置を用いるプロテオミクスやメタボロミクスなど、多階層のオミクスデータを統合的に解析する課題も歓迎します。

B．バイオインフォマティクス（担当教員：内山郁夫　助教（uchiyama@nibb.ac.jp））

当研究所では、大規模な計算機クラスタ、共有メモリ計算サーバ、大容量ファイルサーバなどから構成される計算機システム（生物情報解析システム）を運用しており、このシステムを活用したゲノム関連データ解析（比較ゲノム解析や各種オミクス情報を統合したデータベースの構築など）の共同研究を行います。特に、既存のソフトウェアを利用したデータ処理にとどまらず、既存の方法論の改良や新たな解析アプローチの開発を含む研究や、公的データベースのデータをも活用した大規模なデータ解析、広く研究コミュニティに貢献する有用なデータベースの構築などの研究課題を歓迎します。

(4)　経費負担

共同利用研究の実施に必要な基礎生物学研究所までの交通費及び日当・宿泊料を本研究所の予算の範囲内において支給します。（研究費の助成はありません）

(5)　申請

申込書提出前にあらかじめ、上記担当教員と研究課題、研究計画、必要経費について十分な打ち合わせを行ってください。

５．統合イメージング共同利用研究

基礎生物学研究所が運用している特色ある先端光学機器を用いた実験・研究を行うとともに、生物画像処理・解析に関するニーズや課題を解決することを目的とします。他研究機関の研究者あるいは所内の研究者が、基礎生物学研究所の教員（当研究所を併任する、新分野創成センター・イメージングサイエンス研究分野の専任教員を含む）と共同して行う研究です。平成27年度までDSLM共同利用実験、生物画像処理・解析共同利用研究、および個別共同利用研究として運用されて来たバイオイメージングに関する共同利用実験を「統合イメージング共同利用研究」に統合し、最先端の光学機器と最先端の解析技術による共同研究を幅

広くサポートします。

(1) 申込者（提案代表者）

所内、所外いずれの研究者であっても差し支えないものとします。

(2) 研究期間

１年以内。更新可能。（年度毎に共同利用研究委員会において審査されます。）

(3) 研究課題

主たる担当教員を以下のように配置しますが、研究課題に応じて柔軟に対応します。

A. 先端顕微鏡利用（担当教員：亀井保博　特任准教授（ykamei@nibb.ac.jp）、野中茂紀　准教授（snonaka@nibb.ac.jp））

基礎生物学研究所では、赤外線照射によって組織個体内の任意の部位に目的遺伝子を発現させる IR-LEGO システム、深部観察能と低褪色低光毒性に強みを持つ２光子顕微鏡、高速性と低褪色低光毒性に強みを持つ光シート顕微鏡 DLSM、といった光学機器を運用しています。これらを用いた光照射、光制御、イメージング等の共同利用研究を行います。

B. 生物画像処理・画像解析　（担当教員：木森義隆　新分野創成センター（基礎生物学研究所併任）・特任助教（kimori@nibb.ac.jp)、加藤　輝　新分野創成センター（基礎生物学研究所併任）・特任助教（kkat@nibb.ac.jp））

光学顕微鏡、電子顕微鏡等で取得された画像データに対し、①新規の画像処理・解析手法の開発、②アプリケーションソフトウェアの開発研究、③画像解析を目的とした実験系の構築、など、生物画像に関わる共同研究を行います。

(4) 経費負担

共同利用研究の実施に必要な基礎生物学研究所までの交通費及び日当・宿泊料を本研究の予算の範囲内において支給します。（研究費の助成はありません）

(5) 申請

申込書提出前にあらかじめ、上記担当教員と研究課題、研究計画について十分な打ち合わせ

を行ってください。

６．研　究　会

基礎生物学分野において重要な課題を対象とした比較的少人数の研究討論集会

(1) 申込者（提案代表者）

所内、所外いずれの研究者であっても差し支えないものとします。なお、提案者の中に所内の教授、准教授又は助教が少なくとも１名は参加していなければなりません。

(2) 開催期間・場所

開催期間は３日間を限度とし、本研究所において開催していただきます。

なお、岡崎コンファレンスセンターを利用することができます。利用申込みに際しての詳細は、国際研究協力課共同利用係（Tel: 0564-55-7138（ダイヤルイン））に問い合わせてください。

(3) 経費負担

研究会における発表者の基礎生物学研究所までの交通費及び日当・宿泊料を本研究所の予算の範囲内において支給します。（研究費の助成はありません。）

７．大型スペクトログラフ共同利用実験

大型スペクトログラフを使用して、本研究所が設定した実験課題について行われる実験・研究

(1) 実験課題

生物の多様な機能を制御する各種の光受容系の機構の解明を行うため、共同利用実験の課題として次の４つの研究テーマが設定されています。

Ⅰ 「光情報による細胞機能の制御」

Ⅱ 「光エネルギー変換」

Ⅲ 「生物における空間認識・明暗認識」

Ⅳ 「紫外線による生体機能損傷と光回復」

なお、本研究所の大型スペクトログラフ（詳細事項については、http://www.nibb.ac.jp/lspectro/ols/を参照ください。）は、高分解能・高強度の単色光を広波長領域にわたって、同時照射することが可能な光の作用を高度に解析するための装置です。このような性能を生かした研究を効率良く行うため、あらかじめ充分な予備実験等を行った上、本装置での照射実験をご計画ください。

(2) 申込みに当たっての留意事項

申込書提出前にあらかじめ生物機能解析センター・光学解析室 亀井特任准教授（Tel: 0564-55-7535 E-mail: ykamei@nibb.ac.jp）と十分に事前打ち合わせを行ってください。

(3) 経費負担

大型スペクトログラフ共同利用実験の実施に必要な基礎生物学研究所までの交通費及び日当・宿泊料を本研究所の予算の範囲内において支給します。（研究費の助成はありません。）

８．トレーニングコース実施

基礎生物学に関連する研究技術の普及を目的としたトレーニングコース開催のための実習室の利用

(1)　利用方法

大学及び公的研究機関、学術団体の企画する講習会等を対象とします。所内の教授、准教授又は助教が少なくとも１人は企画に関わり、申請代表者になることを前提とします。

(2)　申込みにあたっての留意事項

トレーニングコース実習室の詳細については、http://www.nibb.ac.jp/course_lab/ をご覧ください。不明な点は本研究所担当者 広報室 倉田特任助教（Tel: 0564-55-7628 E-mail：tkurata@nibb.ac.jp）までお問い合わせください。

(3)　経費負担

トレーニングコース開催における講師及び補助者の基礎生物学研究所までの交通費及び日当・宿泊料、また実施に必要な試薬等の消耗品費を本研究所の予算の範囲内において支給します。

９．その他

双方向性の共同研究を推進するため、上記の公募型共同利用研究の他に、基礎生物学研究所の個々の研究者の提案に基づく提案型共同研究も随時実施しております。本研究の成果についても共同利用研究の成果として共同利用研究報告書に併せて掲載いたします。

研 究 部 門 ・ 研 究 室 一 覧

	研究部門名	教授	電話番号	准教授	電話番号	助教	電話番号
細胞生物学領域	細胞応答研究室	山本正幸	55-7650	（特任） 山下朗	55-7511		
	細胞社会学研究室					*濱田義雄	55-7658
	神経細胞生物学研究室			椎名伸之	55-7620	中山啓	55-7623
	幹細胞生物学研究室			坪内知美	55-7693		
発生生物学領域	生殖細胞研究部門	吉田松生	59-5865			北舘祐 中川俊徳	59-5866
	形態形成研究部門	上野直人	55-7570	木下典行	55-7573	高橋弘樹 鈴木誠	55-7572 55-7574
	分子発生学研究部門	髙田慎治	59-5241			矢部泰二郎 三井優輔	59-5243
	初期発生研究部門	藤森俊彦	59-5860			豊岡やよい 小山宏史	59-5862
	生殖遺伝学研究室			田中実	59-5851		
神経生物学領域	統合神経生物学研究部門	野田昌晴	59-5846	新谷隆史	59-5847	作田拓 檜山武史	59-5848
	光脳回路研究部門	*松崎政紀	55-7680			*平理一郎 *正水芳人	55-7681
	神経生理学研究室			渡辺英治	59-5595		
進化多様性生物学領域	生物進化研究部門	長谷部光泰	55-7546	村田隆	55-7549	石川雅樹 玉田洋介	55-7548 55-7545
	共生システム研究部門	川口正代司	55-7564			武田直也	55-7563
	進化発生研究部門	新美輝幸	55-7606			大出高弘	55-7608
	バイオリソース研究室			成瀬清	55-7554	竹花祐介	55-7579
	構造多様性研究室			児玉隆治	55-7578		
	多様性生物学研究室					大野薫	55-7555
						鎌田芳彰	55-7536
						定塚勝樹	55-7692
						栂根一夫	55-7521
						星野敦	55-7534
						真野昌二	55-7504
						小峰由里子	55-7617
	（イメージングサイエンス研究分野）					木森義隆（特任） 加藤輝（特任）	59-5885
環境生物学領域	分子環境生物学研究部門	*井口泰泉	59-5235			*宮川信一 *荻野由紀子	59-5238
	環境光生物学研究部門	皆川純	55-7515	高橋俊一	55-7517	得津隆太郎	55-7517
	季節生物学研究部門	（客員） 吉村崇	55-7600			四宮愛(特任) 新村毅(特任)	55-7601
理論生物学領域	ゲノム情報研究室					内山郁夫	55-7629
イメージングサイエンス研究領域	時空間制御研究室			野中茂紀	55-7590		

	研究部門名	教授	電話番号	准教授	電話番号	助教	電話番号
モデル生物研究センター	哺乳動物飼育開発支援ユニット			渡辺英治			
	モデル動物解析支援ユニット			渡辺英治	59-5595		
	小型魚類飼育開発支援ユニット			田中実	59-5851		
	メダカバイオリソースユニット			成瀬清	55-7554		
	器官培養研究支援室					*濱田義雄	55-7658
	マーモセット研究施設	*松崎政紀	55-7680				
	モデル植物研究支援室					星野敦 栂根一夫	55-7534 55-7521
	アサガオバイオリソースユニット					星野敦	55-7534
生物機能解析センター	生物機能情報分析室			（特任） 重信秀治	55-7670		
	光学解析室			（特任） 亀井保博	55-7535		
	情報管理解析室					内山郁夫	55-7629
IBBPセンター				成瀬清	59-5932	木村哲晃(特任)	59-5931
岡崎統合バイオサイエンスセンター	生命時空間設計研究領域	髙田慎治	59-5241			矢部泰二郎 三井優輔	59-5243
				（特任） 宮成悠介	59-5850		
	バイオセンシング研究領域	*井口泰泉	59-5235			*宮川信一 *荻野由紀子	59-5238
	生命動秩序形成研究領域			椎名伸之	55-7620	中山啓	55-7623

（平成27年10月1日現在）

電話はダイヤルイン方式になっておりますので、0564-部門電話番号をダイヤルしてください。また、所内対応者の最新情報は、基生研ホームページ対応研究部門・施設一覧（http://www.nibb.ac.jp/sections/）をご覧ください。
○以下の研究部門については、平成28年度共同利用研究の公募はいたしません。
*光脳回路研究部門（松崎・平・正水）マーモセット研究施設（松崎）
*分子環境生物学研究部門（井口・宮川・荻野）
*細胞社会学研究室・器官培養研究支援室（濱田）
○IBBPセンターは、本公募とは別にIBBP共同利用研究（様々な生物遺伝資源の長期保存技術開発を目的とした共同利用研究）を公募しております。詳細はIBBPホームページ（http://www.nibb.ac.jp/ibbp/）をご覧ください。

研究部門の研究の現状

○　細胞応答研究室

細胞は、自分の周囲にある栄養素やホルモンの量、温度、圧力などを感知して、どのような活動を行うかを決定する。特に、卵子や精子を生み出す生殖細胞は、周囲の条件に応答して、染色体の数を半減させる特殊な細胞分裂である減数分裂を開始する。減数分裂では、一度の DNA 合成の後、二度の連続した染色体分配が行われる。この間に、高頻度の遺伝子組換えや、相同染色体が両極に分かれる特殊な染色体分配など、体細胞では見られない興味深い特徴がある。本研究室は、減数分裂を行う最も単純な生物の一つである分裂酵母をモデル系として、細胞が環境の変化を感知して、減数分裂を行って配偶子を形成するまでの過程を分子レベルで記載することを目標とし、研究を行っている。

所長 山本 正幸　（TEL: 0564-55-7650）yamamoto@nibb.ac.jp
特任准教授　山下 朗　（TEL: 0564-55-7511）ymst@nibb.ac.jp

○　細胞社会学研究室（モデル生物研究センター器官培養研究支援室）

（平成 28 年度の募集はありません。）

哺乳類以外の動物は孵化すると直ちに自然にある餌を食べる。哺乳類は卵に貯えられた栄養分が少ないために発生の初期で孵化し、成長に必要な栄養分を取るために母親に寄生する。母親から栄養や酸素を受け取り、老廃物や二酸化炭素を渡す器官が胎盤である。胎盤は胎児由来の組織であるが、その形成には母親由来の細胞との相互作用が不可欠と考えられる。本研究室では母と子の細胞間相互作用を研究している。

助教 濱田 義雄　（TEL: 0564-55-7659）hamada@nibb.ac.jp

○　神経細胞生物学研究室

（岡崎統合バイオサイエンスセンター 生命動秩序形成研究領域）

DNA→mRNA→タンパク質という遺伝子発現は生命活動の根幹であるが、神経細胞ではこの遺伝子発現のうち、タンパク質への翻訳が局所的に制御されている。すなわち、一部の重要なmRNAが神経樹状突起へ輸送され、入力があったシナプス近傍で局所的にタンパク質へ翻訳される。このmRNA輸送・局所的翻訳制御によって、入力強度・頻度の高いシナプスが選択的に強化され、それが記憶や学習に重要であることが明らかにされてきている。樹状突起へのmRNA輸送と局所的翻訳制御に中心的な役割を果たしているのがRNA granuleと呼ばれる巨大複合体である。本研究室ではRNA granuleに局在するRNA結合タンパク質およびmRNAを同定、解析するとともに、それらがシナプス機能、神経ネットワーク形成、さらには記憶や学習などにどのような役割を果たすかについて、マウスを用いて分子レベルから個体レベルまで研究をおこなっている。

准教授 椎名 伸之 （TEL: 0564-55-7620）nshiina@nibb.ac.jp
（http://www.nibb.ac.jp/neurocel）

○ 幹細胞生物学研究室

胚性幹細胞は個体内の全ての細胞種を生み出す能力（多能性）を持つ特殊な細胞集団で、これらを医療に役立てる試みが積極的になされている。しかし、多能性細胞は細胞周期制御など基本的な点で他の細胞種と異なっており、分かっていないことも多い。中でも、胚性幹細胞が遺伝情報を維持するメカニズム、また、分化・脱分化の過程でさらされるゲノム不安定化要因に関する研究は、他の細胞種と比べて遅れをとっている。本研究室では、マウスの胚性幹細胞及び細胞融合によるリプログラミングの系などを使って、特にDNA複製中のストレスに起因したゲノムの不安定化及びそれらに対する細胞応答を明らかにすることを目標とし、細胞生物学的手法を主軸に解析を行っている。

准教授 坪内 知美 （TEL: 0564-55-7693）ttsubo@nibb.ac.jp

○ 生殖細胞研究部門

有性生殖を営む多細胞動物において、配偶子- 卵子と精子- を作る生殖細胞は、次の世代に遺伝情報を正確に伝達する。一方、多数の配偶子を継続して生産することにより子孫を確実に残すことが担保される。本研究部門では、マウス精子形成を主な対象として、この、正確性と生産性を併せ持つ配偶子形成の謎の解明をめざす。当面の目標は、マウス精子形成を支える幹細胞を同定してその性質を明らかにすること、および、微小環境（ニッチ）の実体を解明して幹細胞の自己複製と分化を制御する機構を明らかにすることである。分子生物学、分子遺伝学、形態学、ライブイメージングなどの手法により、多角的に上記の問題に取り組んでいる。

教授 吉田 松生 （TEL: 0564-59-5865）shosei@nibb.ac.jp
（http://www.nibb.ac.jp/germcell/）

○ 形態形成研究部門

受精した卵が細胞分裂を繰り返しながら生物固有の形づくりを進行する過程、すなわち形態形成には個々の細胞の形態変化や移動による３次元的なリモデリングが必須である。細胞分化によって新たな形質を、また細胞骨格の再構成によって新たな形態や細胞極性を獲得した細胞は、それぞれの運命にしたがって正しく配置されることによって、形態的、機能的に洗練された器官、そして個体を形づくる。本研究部門では形態形成を司る細胞外シグナルや転写調節因子、細胞接着分子に焦点をあて、形態形成の分子メカニズムを解明することを目標にして、ホヤ、アフリカツメガエル、マウスなどモデル動物を用いた研究を行っている。

教授 上野 直人 （TEL: 0564-55-7570）nueno@nibb.ac.jp
准教授 木下 典行 （TEL: 0564-55-7573）nkinoshi@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/morphgen/）

○　分子発生学研究部門

（岡崎統合バイオサイエンスセンター 時系列生命現象研究領域）

動物の形態形成のさまざまな局面で分泌性タンパク質は重要な働きを担っている。本研究部門では脊椎動物の体幹部の初期発生をモデルに、形態形成過程における分泌性タンパク質の作用機構を解明することを目指している。具体的には、分泌性タンパク質およびその標的遺伝子の機能を、遺伝子改変マウスやアフリカツメガエルを用いて解析すること、ならびに体幹部形成変異体の探索とその解析を、ゼブラフィッシュを用いて行っている。

教授 高田 慎治 （TEL: 0564-59-5241）stakada@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/~cib2/）

○　初期発生研究部門

動物の発生は受精卵に始まり、やがて明確な体軸を持つ構造が形成される。ほ乳類受精卵には将来の体軸に関わる情報は偏って存在していないが、マウスでは受精後約6 日目には将来の体軸を見いだすことができる。ほ乳類胚において、体軸を決める情報がどのように胚の中に形成され、形として具現化されるかを解明することを目標としている。主にマウスを用い、ライブイメージング、細胞系譜解析などの手法により、胚の中での細胞の挙動を明らかにする。ライブイメージング観察用の一連のレポータートランスジェニックマウスの作製および維持、胚の培養、顕微鏡装置の開発も行っている。個々の細胞の個性がどのように獲得され、胚全体の形が形成されるかについても研究を進めている。

教授 藤森 俊彦 （TEL: 0564-59-5860） fujimori@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/sections/fujimori.html）

○　生殖遺伝学研究室

（モデル生物研究センター モデル動物研究支援室 小型魚類飼育開発支援ユニット）

性決定分化・性転換の分子機構解明を目指して、主としてメダカを用いて研究を行っている。とりわけ、生殖幹細胞と性との関係に着目し、分子遺伝学的手法（変異体解析）、イメージング手法、ゲノムインフォマティクスなどを用いて、多角的かつ総合的な解析を推進している。また遺伝子発現誘導系統メダカなど新たな系統開発も精力的に行っている。

メダカに限らず生殖に関する共同研究を積極的に受け付けている。

准教授 田中 実 （TEL: 0564-59-5851）mtanaka@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/reprogenetics/index.html）

○　統合神経生物学研究部門

本研究部門では、脊椎動物の中枢神経系が個体発生の過程で形成される仕組みや、成体において完成した脳・神経系が機能する仕組みについて、主にマウスを用いて分子・細胞レベルからシステムのレベルまで総合的に研究している。また、病態との関連から創薬まで視野に入れた研究を行っている。主要な研究プロジェクトは以下の通りである。

1）体液・血圧の恒常性を司る脳内機構
2）神経細胞の移動と軸索誘導における細胞骨格制御の分子機構
3）受容体型プロテインチロシンホスファターゼの機能と役割に関する総合的研究

教授 野田 昌晴 （TEL: 0564-59-5846）madon@nibb.ac.jp
准教授 新谷 隆史 （TEL: 0564-59-5847）shin@nibb.ac.jp
（http://niwww3.nibb.ac.jp/）

○　光脳回路研究部門

（平成 28 年度の募集はありません。）

運動制御・認知・学習を司る脳機能は多数の神経細胞の協調的な活動によって成り立っている。この作動原理の解明には、脳内の多数の細胞活動やその入出力、神経細胞間の情報伝達の場であるシナプスの活動・可塑性を、リアルタイムで計測・操作する必要がある。当研究室では、2 光子イメージング、光遺伝学、ケミカルバイオロジー、電気生理学、等を融合した方法論を開発し、これをマウス・ラットの脳に適用することで、脳回路情報処理メカニズムの理解を目指している。

教授 松崎 政紀 （TEL: 0564-55-7680）mzakim@nibb.ac.jp
（http://www.nibb.ac.jp/circuits/）

○　神経生理学研究室

（モデル生物研究センター モデル動物研究支援室 哺乳動物飼育開発支援ユニット・モデル動物解析支援ユニット）

動物の行動生物学が中心課題。現在はメダカとヒトの視覚系の解析を中心に、行動生物学的な研究を行っている。視覚の動物と言われるメダカとヒトに心理物理学的なアプローチを行うことによって、動物の見るメカニズム、そして行動の原理を明らかにしていく。多くの動物は見るという能力を発達させることによって、生存競争に勝ち残ってきた。見るメカニズムを明らかにすることで、脳の、そして動物の理解が深まると考える。

准教授 渡辺 英治 （TEL: 0564-59-5595）eiji@nibb.ac.jp
（http://www.nibb.ac.jp/neurophys/）

○　生物進化研究部門

生物は祖先が持っていなかった新しい形質を次々と生み出しながら進化してきた。

そして、新規形質の多くは、いくつかの性質が整って初めて有利になるような複合形質である。新規複合形質はランダムな突然変異の蓄積だけで説明できるのだろうか。あるいは未知の進化機構が存在しているのであろうか。この問題を解くには、新規複合形質を遺伝子のレベルに還元し、それらができあがるメカニズムを解明し、さらに、近縁種との比較から進化過程を推定することが必要である。我々は、ゲノム解読技術の革新を助けに、これまで分子生物学分子遺伝学的還元のできなかった非モデル生物を材料として、(1) 植物特有の細胞構築・動態、(2) 多能性幹細胞形成維持、(3) 陸上植物の発生、(4) 擬態、(5) 食草転換、(6) 植物の運動、(7) 植物の食虫性を個別な研究対象として、それらから得られた結果を総合し、新規複合形質がどのように進化しうるかの全体像を描き出すことを目指している。

教授 長谷部 光泰 （TEL: 0564-55-7546）mhasebe@nibb.ac.jp

准教授 村田 隆 （TEL: 0564-55-7549）tkmurata@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/evodevo）

○ 共生システム研究部門

マメ科植物は根粒菌（原核生物）の感染をうけると根に細胞分裂を誘導し、根粒という共生窒素固定器官を形成する。一方、多くの陸上植物はアーバスキュラー菌根菌（真核生物）と共生し、リンをはじめとするミネラルを効率よく吸収する。近年これら２つの共生には、複数の共通する宿主遺伝子が関わっていることが明らかになってきた。また根粒形成の制御においては CLV1 などメリステム形成の遺伝子が複数流用されてきたこともわかってきた。当研究室では、マメ科のモデル植物ミヤコグサを用いて、植物・微生物共生の分子メカニズムと発生進化プロセスを解明することを目的としている。また、共生や発生現象のシミュレーションによる数理解析を行い、現象の統合的理解を目指している。

教授 川口 正代司 （TEL: 0564-55-7564）masayosi@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/miyakohp/index.html）

○ 進化発生研究部門

圧倒的な種数の豊富さを誇る昆虫は、多様性の宝庫であり、多様性創出の進化メカニズムを解き明かすための研究材料として未知で無限の可能性を秘めている。本研究部門では、昆虫が進化の過程で獲得した新奇形質に着目し、昆虫の多様な形質をもたらす分子基盤および進化メカニズムを解明することを目指している。現在、「昆虫翅の起源と多様化」、「テントウムシの斑紋と擬態」、「カブトムシの角の獲得と多様化」などの研究テーマについて取り組んでいる。非モデル昆虫が持つ興味深い現象の解明には、斬新なアプローチと新規実験技術の導入が必須であり、遺伝子機能解析法などの開発も行っている。

教授　新美　輝幸（TEL: 0564-55-7606）niimi@nibb.ac.jp

○　バイオリソース研究室

（モデル生物研究センター モデル動物研究支援室 メダカバイオリソースユニット）

条鰭類は脊椎動物の約半数を占める大きなグループである。また条鰭類は哺乳類を含む肉鰭類と姉妹関係を形成することから、我々「ヒト」を含む哺乳類の進化を考察する上でも重要な位置を占めている。我々の研究室では、メダカ近縁種を用いた性決定システムの進化に関する研究、突然変異体の原因遺伝子の同定とその機能解析、メダカ近交系を用いた量的形質の遺伝的要因に関する研究を行っている。Fosmid ライブラリーの作成、遺伝子導入系統の作成、変異体のマッピング、TILLING 法による突然変異体の同定などの共同研究に対応することができる。さらに近年開発された CRISPR-CAS9 によるゲノム編集に必要な g RNA 用プラスミドの調整や卵への DNA/RNA マイクロインジェクションを行うことができる。また 2012 年から始まった第 3 期メダカバイオリソースプロジェクトを担う中心研究室として、メダカバイオリソースの収集・保存・配布をおこなうことでメダカ及びメダカ近縁種をもちいた新たな生物学研究の推進を担っている。

准教授 成瀬 清（TEL: 0564-55-7580）naruse@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/bioresources/）

○　構造多様性研究室

鱗翅目昆虫の成虫翅は二次元の上皮組織であり、翅輪郭形状の決定・気管、気管小枝および翅脈のパターン形成・これらと関連した斑紋パターン形成などの興味深い過程を示す。これらの過程を形態学的な手法を用いて細胞レベルで詳細に記述するとともに、内在するメカニズムを明らかにしようとしている。

准教授 児玉 隆治 （TEL: 0564-55-7578）kodama@nibb.ac.jp

○ 多様性生物学研究室

多様な生物を用いて、各グループが独自の研究を行っている。

大野グループ：

マガキ、マナマコ、アカウニ、イトマキヒトデ等における神経ペプチドの生理作用を、生殖腺および生殖細胞の成熟制御を中心に研究している。

助教 大野　薫（TEL: 0564-55-7555）k_ohno@nibb.ac.jp

鎌田グループ：

出芽酵母を用いて、栄養環境センサー分子 TOR の研究を、遺伝学・生化学・細胞生物学などさまざまな手法を駆使して行っている。

助教　鎌田　芳彰（TEL: 0564-55-7536）yoshikam@nibb.ac.jp

定塚グループ：

酵母をモデルとして、細胞分裂期に形成されるコンパクトに凝縮した染色体の構築機構と、その構造が生物機能に果たす役割について研究している。

助教　定塚　勝樹（TEL: 0564-55-7692）kjozuka@nibb.ac.jp

星野グループ：（モデル生物研究センター モデル植物研究支援室・アサガオバイオリソースユニット）

アサガオの多様な変異体を使い、遺伝子の発現制御機構と花色の発現機構を研究している。アサガオのゲノム情報など、研究基盤の整備も行っている。

助教　星野　敦（TEL: 0564-55-7534）hoshino@nibb.ac.jp

栂根グループ：（モデル生物研究センターモデル植物研究支援室）

イネの内在性トランスポゾンによるゲノムへの影響やその動態と制御機構について研究している。さらに遺伝子の順・逆遺伝学的解析も行っている。

助教　栂根　一夫（TEL: 0564-55-7521）tsugane@nibb.ac.jp

真野グループ：

植物オルガネラの形成機構や機能変換の制御機構について、シロイヌナズナを主な実験材料として、細胞生物学、分子生物学、生化学、イメージング技術を駆使して解析している。

助教　真野　昌二（TEL: 0564-55-7504）mano@nibb.ac.jp

小峰グループ：

主にマウスを材料とし、分子生物学的手法、組織学的手法、行動解析などを組み合わせて、脊椎動物の脳形成、領域分化にかかわる遺伝子の働きを解析している。

助教　小峰　由里子（TEL: 0564-55-7617）ykomine@nibb.ac.jp

木森・加藤グループ：（イメージングサイエンス研究分野）

光学顕微鏡や電子顕微鏡等で撮影された生物画像を対象として、新規の画像処理・解析手法の開発やアプリケーションソフトウェアの開発等を行っている。

特任助教　木森義隆（TEL: 0564-59-5885）kimori@nibb.ac.jp

特任助教　加藤　輝（TEL: 0564-59-5885）kkat@nibb.ac.jp

（https:// is.cnsi.jp/）

○　分子環境生物学研究部門（平成 28 年度の募集はありません。）

（岡崎統合バイオサイエンスセンター 生命環境研究領域）

マウス、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物を用いてホルモンや化学物質応答遺伝子の解析、環境による性分化機構、性ホルモン受容体の進化、発生の臨界期での性ホルモン応答の不可逆性のメカニズムなどを解析している。生体を取り巻く環境変化や化学物質の影響について生命体レベルから分子レベルまでの総合的な視点で研究を行っている。

教授 井口 泰泉 （TEL: 0564-59-5235）taisen@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/~bioenv1/index-j.html）

○　環境光生物学研究部門

植物は、環境の変化に自らを順化適応させることで生き残りをはかる。太陽光を集め利用可能なエネルギーへの変換を行う光合成においても、さまざまな階層における光環境適応がみられる。本研究部門では、単細胞緑藻を中心としたモデル微細藻類について、分子遺伝学、生化学、分光学的手法さらにはライブイメージングの手法を駆使することで、特に光を集めるアンテナ装置がいかに効率よく光を集めているのか、その分子基盤の解析を行っている。また、得られた基礎的知見を、南極の緑藻やサンゴと共生する褐虫藻、北太平洋の珪藻などに応用し、環境において重要なこれらの光合成生物の生理生態の理解を目指している。

教授 皆川 純 （TEL: 0564-55-7515）minagawa@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/photo/）

○　季節生物学研究部門

季節の移ろいにともない、日の長さ（日長）や気温、降水量など、生物をとりまく環境は刻々と変化する。動物はこの環境の変化を感知して、繁殖、渡り、休眠、換毛など、様々な生理機能や行動を変化させているが、動物が季節の変化を読み取る仕組みはまだ解明されていない。メダカは、日長や水温の変化を敏感に感知し、春から夏にかけて繁殖する。また、ゲノムが解読されているだけでなく、生息する地域によって季節の変化に対する応答性が異なることが知られている。本部門では、日本の様々な地域で採集された野生メダカや遺伝子改変メダカを駆使して、動物が日長や温度の変化を感知して環境の季節変化に適応する仕組みの全容の解明を目指している。

客員教授 吉村 崇 （TEL: 0564-55-7600）takashiy@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/sections/environmental_biology/yoshimura/）

○　時空間制御研究室

本研究室では主にマウス胚を用い、原腸陥入および左右非対称性決定の機構をライブイメージングによって解析している。またライブイメージングに適した顕微鏡自体の開発も手がけている。このために組織深部まで観察可能かつ褪色の少ない蛍光顕微鏡である 2 光子顕微鏡、さらに高速で立体画像を取得可能な光シート顕微鏡 Digital Scanned Light-Sheet Microscope (DSLM)を運用しており、DSLM 共同利用実験または個別共同利用研究のかたちで広く発生生物学や細胞生物学での共同利用を実施している。

准教授 野中 茂紀 （TEL: 0564-55-7590）snonaka@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/~bioimg2/）

○　モデル生物研究センター

モデル生物研究センターは、生物学研究の基盤となるモデル動植物等について、飼育栽培のための設備を提供するとともに、形質転換体の開発や保存、さらには解析研究の支援を行う施設である。本センターは、モデル動物研究支援室（哺乳動物飼育開発支援ユニット、モデル動物解析支援ユニット、小型魚類飼育開発支援ユニット、メダカバイオリソースユニット）、器官培養研究支援室、マーモセット研究施設、モデル植物研究支援室、アサガオバイオリソースユニットから成り立っている。マウス施設では、ノックアウトマウス・トランスジェニックマウス作製などにより遺伝子操作マウスの開発・飼育維持・解析を行い、受精卵凍結法により系統保存を行っている。平成 19 年度からメダカバイオリソースの中核拠点となり、従来の変異体や遺伝子導入小型魚類飼育管理に加え、全国の汎用系統なども管理維持し、配布と有用系統の開発も行っている。鳥類施設では遺伝子導入により、遺伝子機能解析研究が可能となっている。器官培養施設では、細胞と器官レベルの実験を支援している。植物施設ではモデル植物の育成と形質転換体の開発支援を行っており、解析用の各種人工気象室を備えている。アサガオ施設は、ナショナルバイオリソースプロジェクトの分担機関として、アサガオの各種リソースの収集・保存・提供を行っている。

１．モデル動物研究支援室

１）哺乳動物飼育開発支援ユニット

SPF マウスの飼育及び開発の支援を行っている。モデル生物研究センターの施設内には最大 2 万匹の SPF マウス飼育できる設備を備えており、マウス飼育支援のための凍結受精卵の作成、保管、解凍、移植の支援も行っている。さらにはトランスジェニックマウスやノックアウトマウス作成を支援するための偽妊娠マウスや里親の供給も行っている。所内の部門や研究室を通じた共同研究を支援している。

２）モデル動物解析支援ユニット

SPF マウス及び SPF ラットを利用した解析研究を支援している。モデル生物研究センターの施設内には、主として行動解析を行うための実験室を三つ備えている。一つは山手地区 SPF 施設内にある行動解析専用施設で、残り二つは明大寺地区にあり P2 及び P3 レベルの組換え DNA 実験室も可能な行動解析実験室となっている。所内の部門や研究室を通じた共同研究を支援している。

３）小型魚類飼育開発支援ユニット

近年新たに実験動物として確立されてきたメダカ、ゼブラフィッシュを用いた実験、さらにニワトリを主として用いた鳥類の実験を支援する。自動循環水槽や大型の孵卵室を備え、卵へのマイクロインジェクションもユニット内で可能となっている。新たな遺伝子改変系統の作出を行なっており、それら遺伝子導入小型魚類が飼育維持でき

る環境（P1A）を整えている。ニワトリの遺伝子組み換え実験（P2A）にも対応可能となっている。

２．メダカバイオリソースユニット

メダカバイオリソースユニット（http://www.shigen.nig.ac.jp/medaka/）ではメダカに関する生物遺伝資源の収集・保存をおこない、それらを統合的に提供することでメダカを用いた生物学・基礎医学分野を飛躍的に発展させることを目的として活動している。現在は600以上のメダカ系統、40万あまりのcDNAクローン、28万あまりのBAC/Fosmidクローン、孵化酵素の提供とともに、2010年からはTILLINGによる変異体スクリーニングシステムの提供も行っている。2014年度からはCRISPR-CAS9によるゲノム編集のサポートも行っている。メダカバイオリソースユニットへの共同利用申し込みはバイオリソース研究室への共同利用申し込みとして対応する。

３．器官培養研究支援室

培養細胞及び培養器官を利用した研究を支援する。モデル生物研究センターの施設内には、一般細胞培養室を初め、ES細胞専用培養室、P2実験専用培養室、器官培養室、酵母培養室などを備えている。また山手地区と明大寺地区それぞれに凍結細胞を保存するための大型液体窒素タンクを備えている。所内外の共同研究の支援を行っている。

４．マーモセット研究施設

マーモセット研究施設では、文部科学省「脳科学研究推進プログラム課題：霊長類モデル動物の創出・普及体制の整備」（拠点長：佐々木えりか実験動物中央研究所応用発生学研究センター長）の参画機関である自然科学研究機構として、脳科学研究に有用性の高い遺伝子改変マーモセットの創出を行っている。現状では、共同研究を募集していない。

５．モデル植物研究支援室

シロイヌナズナ、ミヤコグサ、アサガオ、ヒメツリガネゴケ、クラミドモナスなどのモデル植物を、光・温度・湿度等を厳密に制御した環境条件のもとに培養育成するためのインキュベーターや恒温室が整えられている。また、強光及び極低・高温の極限環境下で培養育成する施設も設置されている。これらのほとんどはP1Pレベルに指定されており遺伝子組換え実験も可能である。屋外には大小2つの温室、5棟（8室）のファイトトロン、2棟（5室）のP1Pレベル形質転換植物用温室、圃場及び管理室が設置されている。

６．アサガオバイオリソースユニット

アサガオバイオリソースユニットでは、ナショナルバイオリソースプロジェクト・アサガオ（代表機関：九州大学）の分担機関として、アサガオの各種リソースの収集・保存・提供を行っている。おもに取り扱うリソースは、変異系統ならびに cDNA と BAC クローンである。国内外におけるアサガオと近縁種の研究を支援している。

○　生物機能解析センター

共同利用研究体制の強化を目的とした研究施設の改組により、平成 22 年度に生物機能解析センターが設立された。生物機能解析センターは、生物機能情報分析室、光学解析室、情報管理解析室より成り、それぞれの室に所蔵される分析・光学機器を用いた実験・研究をサポートできる体制を整えている。このような機器を利用した研究とともに、それぞれの室に所属する教員は独自の研究を展開している。

生物機能情報分析室は、遺伝子・タンパク質解析の共同研究拠点として、基礎生物学研究所の分析機器の管理・運用を行っている。超遠心機のような汎用機器から次世代シークエンサーのような先端機器に至るまで、40 種類 70 台にのぼる機器を所蔵し、その多くは所外の研究者にも開放している。（生物機能情報分析室ホームページ http://www.nibb.ac.jp/~analyins/CAI-home.html 参照）特に、機能ゲノミクスに力を入れており、次世代 DNA シークエンサーと質量分析機を利用した共同利用研究を行っている。

光学解析室は大型分光照射施設である大型スペクトログラフと、デジタルスキャン光シート顕微鏡（DSLM）、2 光子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、さらに赤外レーザーで局所的遺伝子発現を実現する IR-LEGO 顕微鏡を所蔵している。（各装置の詳細は光学解析室ホームページ http://www.nibb.ac.jp/lspectro/ 参照）これらの機器を用いた共同利用研究を行っている。

情報管理解析室は、共有メモリサーバ、分散処理用計算機クラスタ、大容量ディスクアレイ装置などから構成される生物情報解析システムを運用しており、これらを用いたゲノム規模での配列データ解析や画像処理、各種データベースの構築と運用のサポートなどを行っている。（詳細は http://www.nibb.ac.jp/cproom/ 参照）これらの設備を活用した、大規模データ解析やデータベース構築などを含む研究課題を共同利用研究として公募している。

１．生物機能情報分析室

最先端のゲノム科学を駆使して、「共生・発生・進化」をキーワードに研究を行っている。特に、昆虫アブラムシとその共生細菌ブフネラの共生系をモデルに、共生によるイノベーションを支える分子・遺伝子基盤とその進化過程の解明を目指している。実験生物学と情報生物学の融合的アプローチが特徴である。

特任准教授 重信 秀治（TEL: 0564-55-7670）shige@nibb.ac.jp

２．光学解析室

「光」を使った非侵襲的な遺伝子発現誘導顕微鏡と、遺伝子の変異体ライブラリーから作製した変異体を組み合わせて、「個体レベル」での遺伝子機能解析を行っている。研究対象としては光学的アプローチに適し、ゲノムなどの情報が完備されたモデル生物である「メダカ」を使っている。遺伝子発現誘導顕微鏡とは、生体内の単一細胞に赤外線を照射することで熱ショック応答により目的の遺伝子発現を誘導するIR-LEGO法(Kamei et al. Nat. Methods, 2009; Deguchi et al. Dev. Growth Diff., 2009)である。一方で、変異体を逆遺伝学的に作製できるTILLING法(Taniguchi et al. Genome Biol., 2007)により得たメダカに、トランスジェニック技術を使って熱ショックで遺伝子発現を操作できるようにする。これら技術を組み合わせて、生きた個体の中の遺伝子を操作し、生体内における様々な遺伝子の機能解析を目指している。

特任准教授 亀井 保博（TEL: 0564-55-7535）ykamei@nibb.ac.jp

（http://www.nibb.ac.jp/lspectro/）

３．情報管理解析室（ゲノム情報研究室）

情報科学的アプローチで大量のゲノム情報から生命現象の理解を目指す研究を行っている。特に、近年急速にデータが蓄積し、自然界における多様性の実態が明らかになりつつある微生物のゲノムを対象として、網羅的な比較解析によるゲノム情報の体系化と、それに基づくゲノムの機能や進化の解明を目指した研究を行っている。このため、多数のゲノムを同時に比較するための高速オーソログ分類手法の開発や、それに基づく網羅的な比較ゲノムデータベースの構築を行ってきた。こうした情報基盤に基づいて、水平移動を含む複雑な微生物ゲノムの進化プロセスの解明に向けた取り組みを進めている。

助教　内山 郁夫（TEL: 0564-55-7629）uchiyama@nibb.ac.jp

○　ＩＢＢＰセンター

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、東北地方の大学を中心に多くの生物遺伝資源が毀損・ 消失した。震災による直接的な設備被害だけでなく、長期の停電等により長年の研究活動によって貴重な生物遺伝資源が消失し、その結果多くの研究者がその研究計画の方向転換や中断を余儀なくされた。 このような不測の事態による生物遺伝資源の消失は今後も十分起こりえるため、何らかの対策を講ずることが不可欠である。生物遺伝資源の毀損や消失を回避するためには、個々の研究によって創出された生物遺伝資源のバックアップを作成し、オリジナルとは地域的に離れた場所に保管することが有効である。このため大学連携バイオバックアッププロジェクト（IBBP）を平成 24 年度から新たに開始した（http://www.nibb.ac.jp/ibbp/）。IBBP

では自然科学研究機構基礎生物学研究所に大型の冷凍・冷蔵保管施設を備えた IBBP センターを設置し、 生物遺伝資源の保管・管理を担当する。また北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学には大学サテライト拠点を設置し全国の大学・研究所からのバックアップ依頼を受け付け、IBBP センターと協力してプロジェクトを推進する。IBBP センターでは大型の液体窒素保 存システム、超低温フリーザー、種子保存室に加え、DNA シークエンサー、プログラムフリーザー、動植物細胞培養システム、バクテリア培養装置、ラボオートメーションシステム、レプリカ作成装置、バイオハザードキャビネット、蛍光・位相差・落射蛍光顕微鏡など生物遺伝資源のバックアップと品質管理及び生物遺伝資源の付加価値の向上を行うことができる最新の実験設備を備えている。

○　岡崎統合バイオサイエンスセンター・核内ゲノム動態研究部門

ヒトを含む様々な生物種のゲノム DNA の塩基配列の全容が明らかとなり、細胞特異的なエピゲノム情報も蓄積されつつある。最近では、核内におけるクロマチンのローカルな 3 次元構造が転写を含むゲノムの機能に重要な役割を担うことが明らかとなってきた。この膨大なゲノム情報はクロマチン繊維として数 μm の核に絡み合うことなく収納されており、その立体配置をもったゲノム核内構造は高度に組織化されている。当研究室では、クロマチンの動きをイメージングする新しい技術を用いることで、これまでとは全く異なるユニークなアプローチで、核内ゲノムのトポロジー変化が細胞の運命決定へ与える影響を理解し、ゲノム高次構造の制御メカニズムの解明に迫る。

特任准教授 宮成　悠介（TEL: 0564-59-5850）miyanari@nibb.ac.jp
（http://www.nibb.ac.jp/miyalab/）

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度重点共同利用研究申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　　殿

所属機関
所属部局
職　　名
申　込　者　　氏（ふりがな）　名　　㊞
（提案代表者）
連 絡 先
〒
住　　所
電話番号（　　）　　－
内線
E-mail アドレス

研　究　課　題						
研　究　概　要		（「研究計画書」に記入して下さい）		新規申請 ・ 継続申請　　年度から		
研　究　期　間		平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日				
		氏　　名	所属（大学・学部・研究科等）	職　名	来所日程	来所回数
提案代表者及び共同利用研究者・来所計画 （研究補助者として学部学生を登録することも可能です）	提案代表者					
	1				泊　日 泊　日	回 回
	2				泊　日 泊　日	回 回
	3				泊　日 泊　日	回 回
	4				泊　日 泊　日	回 回
	5				泊　日 泊　日	回 回
	6				泊　日 泊　日	回 回
	7				泊　日 泊　日	回 回
	8				泊　日 泊　日	回 回
	9				泊　日 泊　日	回 回
	10				泊　日 泊　日	回 回
	11				泊　日 泊　日	回 回
所内責任者名						
希　望　事　項						

研　究　計　画　書

1. 研究の目的　（できるだけワープロで記入ください。）

2. 重点共同利用研究として推進する必要性

3. 研究の独創性、萌芽性、将来的な展望

4. 研 究 計 画

5. これまでの研究経過と準備状況（新規申請の場合）

6. 研究成果（継続申請の場合）

7. 所内対応者と提案代表者及び共同利用研究者の役割分担

8. 必要とする研究費の内訳

研究費の申請は、提案代表者が所外である場合、所内対応者と十分研究計画を打合せの上、３００万円を限度として記入してください。（経費は、基礎生物学研究所で使用していただきます。）

旅　　費	円
消耗品費	円
その他印刷製本費等	円
合計	円

9. アイソトープ利用等について

(ｱ) アイソトープ（有・無）
(ｲ) 組換えＤＮＡ技術（有・無）
(ｳ) 動物実験（有・無）
(ｴ) ヒトゲノム・遺伝子解析（有・無）
(ｵ) 光学解析室（大型スペクトログラフ（有・無）・顕微鏡（有・無））
(ｶ) 生物機能情報分析室（有・無）
(ｷ) 電子顕微鏡（有・無）
(ｸ) 大型電子計算機（有・無）

10. 研究業績

最近５年間の国際学術誌に公表された学術研究論文について共同利用研究者も含め、各研究者５編程度記入すること。さらに、本共同利用研究の成果は＊印を付すこと。（別紙可。）

提案代表者、共同利用研究者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

提案代表者、 共同利用研究者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

平成　　年　　月　　日

上記の重点共同利用研究の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度モデル生物・技術開発共同利用研究申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　　殿

所属機関
所属部局
職　　名
申　込　者　　氏（ふりがな）名　　㊞
（提案代表者）　連 絡 先
〒
住　　所
電話番号（　　）　　－
内線
E-mail アドレス

研　究　課　題			
研　究　概　要	（「研究計画書」に記入して下さい）	新規申請 ・ 継続申請	年度から
研　究　期　間	平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日		

提案代表者以外の共同利用研究者の所属・職・氏名（研究補助者として学部学生を登録することも可能です）	所属（大学・学部・研究科等）	職　名	氏　名

所内責任者名	

来所計画	氏　名	来所計画 来所日数	来所計画 予定月	氏　名	来所計画 来所日数	来所計画 予定月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月

希　望　事　項	

研　究　計　画　書

1. 研究の目的　（できるだけワープロで記入ください。）

2. 研究計画

3. これまでの研究経過と準備状況（新規申請の場合）

4. 研究成果（継続申請の場合）

5. 共同利用研究をする必要性と所内対応者との役割分担

6. 必要とする研究費の内訳

研究費の申請は、提案代表者が所外である場合、所内対応者と十分研究計画を打合せの上、１００万円を限度として記入してください。（経費は、基礎生物学研究所で使用していただきます。）

旅　　費	円
消耗品費	円
その他印刷製本費等	円
合計	円

7. アイソトープ利用等について

(ｱ) アイソトープ（有・無）　(ｲ) 組換えＤＮＡ技術（有・無）　(ｳ) 動物実験（有・無）
(ｴ) ヒトゲノム・遺伝子解析（有・無）　(ｵ) 光学解析室（大型スペクトログラフ（有・無）・顕微鏡（有・無））
(ｶ) 生物機能情報分析室（有・無）　(ｷ) 電子顕微鏡（有・無）　(ｸ)大型電子計算機（有・無）

8. 研究業績

提案代表者における最近５年間の国際学術誌に公表された主要な学術研究論文を記入すること。
さらに、本共同利用研究の成果は＊印を付すこと。

提 案 代 表 者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

平成　　年　　月　　日

上記のモデル生物・技術開発共同利用研究の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度個別共同利用研究申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　　殿

所属機関
所属部局
職　　名
申 込 者　　氏（ふりがな）名　　㊞
（提案代表者）　連 絡 先
〒
住　　所
電話番号（　　）　　－
内線
E-mail アドレス

研 究 課 題			
研 究 概 要	（「研究計画書」に記入して下さい）		
研 究 期 間	平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日		
提案代表者以外の共同利用研究者の所属・職・氏名（研究補助者として学部学生を登録することも可能です）	所属（大学・学部・研究科等）	職　名	氏　　名
所内対応者名			

来 所 計 画	氏　名	来所日数	予定月	氏　名	来所日数	予定月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月

希 望 事 項	

研　究　計　画　書

1. 研究の目的　（できるだけワープロで記入ください。）

2. 研究計画

3. これまでの研究経過と準備状況

4. 共同利用研究をする必要性と所内対応者との役割分担

5. アイソトープ利用等について
   (ｱ) アイソトープ（有・無）
   (ｲ) 組換えＤＮＡ技術（有・無）
   (ｳ) 動物実験（有・無）
   (ｴ) ヒトゲノム・遺伝子解析（有・無）
   (ｵ) 光学解析室（大型スペクトログラフ（有・無）・顕微鏡（有・無））
   (ｶ) 生物機能情報分析室（有・無）
   (ｷ) 電子顕微鏡（有・無）
   (ｸ) 大型電子計算機（有・無）

6. 過去に本研究所において共同利用研究を実施した年度に○を付けてください。

平成 16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
24 年度	25 年度	26 年度	27 年度

7. 研究業績

提案代表者における最近 5 年間の国際学術誌に公表された主要な学術研究論文を記入すること。
さらに、本共同利用研究の成果は＊印を付すこと。

提 案 代 表 者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

平成　　年　　月　　日

上記の個別共同利用研究の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度　統合ゲノミクス共同利用研究申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　　殿

所属機関
所属部局
職　　名
申　込　者　　氏（ふりがな）名　　㊞
（提案代表者）　連 絡 先
〒
住　　所
電話番号（　　）　　－
内線
E-mail アドレス

研究課題	
カテゴリー	☐ A. ゲノミクス ☐ B. バイオインフォマティクス
研究期間	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日

提案代表者以外の共同利用研究者の所属・職・氏名（研究補助者として学部学生の登録も可能です。）	所属（大学・学部・研究科等）	職　名	氏　　名

所 内 対 応 者	

来 所 計 画	氏　名	来　所　計　画		氏　名	来　所　計　画	
		来 所 日 数	予定月		来 所 日 数	予定月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月

希　望　事　項	

研　究　計　画　書

1. 研究の目的

2. 研究計画

3. これまでの研究経過と準備状況

4.　継続の必要性（継続申請の場合）

5.共同利用研究として推進する必要性

6.所内対応者と提案代表者及び共同利用研究者の役割分担

7. アイソトープ等利用について
   A. アイソトープ利用（有・無）
   B. ヒトゲノム・遺伝子解析（有・無）
   C. 組換えＤＮＡ実験（有・無）
   D. 動物実験（有・無）

8. 過去に本研究所において共同利用研究を実施した年度に○を付けてください。

平成 16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
24 年度	25 年度	26 年度	27 年度

9. 研究業績

提案代表者における最近5年間の国際学術誌に公表された主要な学術研究論文を記入すること。
さらに、本共同利用研究の成果は＊印を付すこと。

提 案 代 表 者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

平成　　年　　月　　日

上記の共同利用研究の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度　統合イメージング共同利用研究申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　　殿

所属機関
所属部局
職　　名
申　込　者　　氏（ふりがな）名　　㊞
（提案代表者）　連 絡 先
〒
住　　所
電話番号（　　）　　－
内線
E-mail アドレス

研究課題			
カテゴリー	☐ A. 先端顕微鏡利用 ☐ B. 生物画像処理・画像解析	＊ 対象となるカテゴリー（片方または両方）チェック☒を付けて下さい。	
研究期間	平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日		
提案代表者以外の共同利用研究者の所属・職・氏名（研究補助者として学部学生の登録も可能です。）	所属（大学・学部・研究科等）	職　名	氏　　名
所 内 対 応 者			

来 所 計 画	氏　名	来　所　計　画		氏　名	来　所　計　画	
		来 所 日 数	予定月		来 所 日 数	予定月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月

希 望 事 項	

研　究　計　画　書

0.　研究内容のカテゴリー（詳細）

※　B. 生物画像処理・画像解析のカテゴリーを含む方はいずれかにチェック☒を入れてください。
「④その他」の場合は概要を記入してください。(A.の場合は記入不要です。)

□　①新規の画像処理・解析手法の開発研究
□　②アプリケーションソフトウェアの開発研究
□　③画像解析を目的とした実験系の構築
□　④その他

1.　研 究 の 目 的

2. 研 究 計 画

3. これまでの研究経過と準備状況

4.　継続の必要性（継続申請の場合）

5.共同利用研究として推進する必要性

6.所内対応者と提案代表者及び共同利用研究者の役割分担

7. 動物実験・組換えDNA実験等について
   A. アイソトープ利用（有・無）
   B. ヒトゲノム・遺伝子解析（有・無）
   C. 組換えＤＮＡ実験（有・無）
   D. 動物実験（有・無）
   E. 電子顕微鏡（有・無）
   F. 大型計算機（有・無）

8. 使用する生物種と、観察時や、短期保管に必要な施設や条件（温度・湿度・海水など）について

9. 特許・実用新案申請(取得)の可能性

10. 過去に本研究所において共同利用研究を実施した年度に○を付けてください。

平成16年度	17年度	18年度	19年度
20年度	21年度	22年度	23年度
24年度	25年度	26年度	27年度

11. 研究業績

提案代表者における最近5年間の国際学術誌に公表された主要な学術研究論文を記入すること。
さらに、本研究所共同利用研究による成果には＊印を付すこと。

提 案 代 表 者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

平成　　年　　月　　日

上記の共同利用研究の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度研究会申込書

平成　年　月　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　殿

所属機関

所属部局

職　名

申　込　者　氏（ふりがな）名　　㊞
（提案代表者）

連絡先

〒
住　所

電話番号（　　）　　－

内線

E-mail アドレス

研究会の研究課題名	
研究会の概要	目的・実施内容（過去に本研究所で類似した研究課題で研究会を開催したことがある場合は今回の申請との関連を記入願います。）
開催希望年月日	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日（3 日以内）
所内対応者名	
希望事項	

発表予定者（提案代表者には頭書の番号に○印を付けてください。）				
番号	氏　　名	所　　属	職　　名	備　　考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

平成　　年　　月　　日

上記の研究会の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

部　門 責任者印		所　内 対応者印		受付 No.	

平成２８年度大型スペクトログラフ共同利用実験申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　　殿

所属機関
職　　名
申 込 者　氏（ふりがな）名　　㊞
（提案代表者）
連絡先
〒
住　　所
電話番号（　　）　　－
内線
FAX 番号（　　）　　－
E-mail アドレス

研 究 題 目		実験課題 （該当課題番号を○で囲んでください。）	Ⅰ「光情報による細胞機能の制御」 Ⅱ「光エネルギー変換」 Ⅲ「生物における空間認識・明暗認識」 Ⅳ「紫外線による生体機能損傷と光回復」
実 験 計 画	（「実験計画書」に記入してください。）		

共同利用実験者（実験をグループで行う場合に記入してください。実験補助者として学部学生を登録することも可能です。）	氏　　名	所　属・職　名	役 割 分 担

来 所 計 画	氏　名	来 所 計 画		氏　名	来 所 計 画	
		来 所 日 数	予定月		来 所 日 数	予定月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月
		第　回（　泊　日）	月		第　回（　泊　日）	月

基礎生物学研究所における対応者（研究部門・氏名あるいは「光学解析室 亀井保博 特任准教授」）

所 内 対 応 者	

実　験　計　画　書

（できるだけワープロで記入ください。）

（所定欄に記入しきれない場合には、適宜別紙に記載してください。）

1.　研究の目的（研究の背景、意義及び予定の期間内に明らかにしようとする事項を具体的に記入してください。）

2. 実験計画及び方法（この計画書の 8 以下との関連がわかるように記入してください。）

3. 大型スペクトログラフおよび（または）高度化システムを利用する必要性

4. これまでの研究経過

5.　本研究に関連する国内外の研究状況及び本研究の特色又は独創性

6. 研　究　業　績（**国際学術誌に公表されたもののみ**）

提案代表者について大型スペクトログラフ共同利用実験の成果はすべて記入し＊印を付すこと。

さらに最近5年間の主要な学術研究論文のみ、発表年次の順に記入すること。

提 案 代 表 者	著者・論文（著書）名・学協会誌（発行所）名・巻・頁・発行年

7. 過去に代表者として大型スペクトログラフ室を使用した年度に○を付けてください。

平成16年度	17年度	18年度	19年度
20年度	21年度	22年度	23年度
24年度	25年度	26年度	27年度

8. 実験に使用する生物体

9. 実験に使用する生物の基礎生物学研究所での培養育成条件

温　　度		光　　源		明暗周期		期　　間	
湿　　度		光 強 度		必　　要 スペース		そ の 他	

10. 照 射 条 件

生物容器の形・大きさ・材質		被照射面の形・大きさ	
照　　射　　方　　向		温　　度	
波　　長			
光強度〔 μ mol・m^{-2}・秒$^{-1}$ 又はW・m^{-2}で表示 〕			
1回の照射時間及び照射回数		照　　射　　間　　隔	

11. 実験に必要とする消耗品（光照射に直接必要とする容器・支持具・光学素子等に限ります。）

品　名　・　規　格　等	数 量	使用目的	品　名　・　規　格　等	数 量	使用目的

12. 実験に必要とする備品（基礎生物学研究所にあるかどうか、あらかじめ光学解析室に問い合わせてください。）

品　名　・　規　格　等	数 量	使用目的	品　名　・　規　格　等	数 量	使用目的

13. アイソトープ利用等について

(ｱ) アイソトープ（有・無）　(ｲ) 組換えＤＮＡ技術（有・無）　(ｳ)動物実験（有・無）

(ｴ) ヒトゲノム・遺伝子解析（有・無）　(ｵ) 生物機能情報分析室（有・無）

(ｶ) 大型電子計算機（有・無）　(ｷ) 光学解析室・顕微鏡（有・無）

14. 時間外利用に関して

職員の勤務時間外（休日を含む）の照射は研究上意義がある場合を除いて基本的に認めていません。

実験室への入室　　8:30-17:30 以外の入室の必要性　（有・無）

スペクトログラフ照射　9:00-17:00 以外の利用の必要性　（有・無）

時間外利用の必要性がある場合、その理由を「15.その他参考事項」の枠内に明記下さい。

15. その他の参考事項

平成　　年　　月　　日

上記の大型スペクトログラフ共同利用実験の申込を承認する。

申込者の所属長

職印

生物機能解析センター長印		受付 No.	

平成２８年度トレーニングコース実施申込書

平成　　年　　月　　日

自然科学研究機構
　基礎生物学研究所長　殿

部 門 名

申　込　者　　職　　名

（提案代表者）　氏（ふりがな）　名　　㊞

連 絡 先

電話番号（　　）　　－
FAX 番号　（　　）　　－
E-mail アドレス

トレーニング コ ー ス 題 目	
実施希望年月日	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日
実　施　計　画	（「実施計画書」に記入してください）

	氏　　名	所属（大学・学部・研究科等）	職　名（ 学年 ）	備　考
講師及び 補助者 （実習補助者として学部学生の登録も可能です）				

＊ 所内の教授、准教授又は助教が少なくとも１人は企画に関わり、申込者（提案代表者）になることを前提とします。
＊ 申込者（提案代表者）は、別途基生研受付で室の予約をしてください。

実　施　計　画　書

（所定欄に記入しきれない場合には、適宜別紙に記載してください。）

1. トレーニングコース実施の目的（できるだけワープロで記入ください。）

2. 利用機器（実習室概要：http://www.nibb.ac.jp/course_lab/ の機器リストを参照ください。）

3. 実施計画（受講生の数、日程などについて）

4. 準備状況

5.　実習に要する消耗品等（細かい内訳、費用を記入下さい。）